

会計アドバンス演習		講義	教授 安藤 鋭也
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 選択必修科目	科目ナンバリング	23010201

1. 授業のねらい・概要

会計に関する基礎知識（例えば「会計学基礎」「会計学総論」を履修済、「財務会計論」「国際会計論」を履修中）を前提にして、「ビジネスの言語」としての会計を学びます。また日商簿記検定試験に合格またはチャレンジされているといった、会計プロフェッション志望の方も歓迎します。異なる立場や考え方の皆さんが、ともに会計に接することは（特に卒業後の実社会において）有益だからです。そのため本演習においては、皆さんの希望を丁寧に聞き、積極的に採り入れます。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とします。皆さんの希望によっては、演習形式でも輪読形式でも構いません。職業としての会計プロフェッション（例えば公認会計士、税理士）に関心があれば、必要な指導も行います。

3. 授業計画

概ね以下の通りです。皆さんの希望を出来るだけ採り入れます。主役は皆さんです。相談しながら進めましょう。

1. ガイダンス	9. 公正価値による測定-直接的な評価-(第6章)
2. 企業会計の基礎(第1章)	10. 同上
3. 概念フレームワーク-書かれている基礎-(第2章)	11. 取得原価による測定-配分-(第7章)
4. 同上	12. 同上
5. 書かれていない基礎(第3章)	13. 負債の割引価値による測定-直接的な評価か配分か-(第8章)
6. 資本と利益の報告システム(第4章)	14. 資産・負債のオンバランス化-投資の清算-(第9章)
7. 同上	15. まとめ
8. 資産・負債のオンバランス化-投資の開始-(第5章)	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回テキストの該当箇所を事前に読んできて下さい（30分程度）。また学修内容の定着には復習が欠かせません。前回の授業内容は、配布プリントやノートも使って理解に努めて下さい（1時間程度）。もし不明点や疑問点があれば、メールや次の授業で遠慮なく質問して下さい。一緒に考えましょう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際は、解答のポイントや出題意図を（試験）終了後に説明します。

6. 授業における学修の到達目標

現代の会計基準が、企業活動にどのような影響を及ぼしているかを理解することが目標です。

7. 成績評価の方法・基準

平常点 50%（授業への取り組み姿勢など）および試験の結果 50%で成績評価を行います。

8. テキスト・参考文献

テキストは、秋葉賢一（2019）『会計基準の読み方 Q&A100 第2版』中央経済社を使用します。本テキストは改訂される可能性があります。授業では最新版を使用します。参考文献は適宜紹介します。

9. 受講上の留意事項

皆さんが将来、会計に関わる専門家・実務家として、活躍するためのベースとなる会計の知識（会計リテラシー）を身につけてもらいたいと思います。皆さんの主体的・積極的な参加を心から歓迎します。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本ゼミは、総合商社（経理部門）における実務経験も活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりです。